

「第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（R8～12年度）策定に向けた中間まとめ（案）」では、令和7年2月21日（金）に中央教育審議会で決定された「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」等を参照しながら、特に、**教育研究の「質」の向上の観点から、今後の方向性等を整理**しています。

1 学修者本位の教育の更なる推進 2 多様な学生の受入れ促進（外国人留学生や社会人等） 3 大学院教育の改革 4 研究力の強化 5 情報公表の推進

- **デジタル化の推進**
 - ・対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリット型教育の充実等
- **幅広いキャリアパスの開拓推進**
 - ・多様な博士人材の育成や研究活動を支える施設整備等
- **社会人の学びの場の拡大**
 - ・地域の社会人と学生が共に学ぶキャンパスの実現や地方公共団体や産業界との共創拠点の整備の充実、地域と連携した地域産業振興・スタートアップ創出のための拠点整備等
- **多様な学生の受入れ推進**
 - ・留学生、社会人、女性学生等のキャンパスのダイバーシティを支える環境の整備等
- **留学モビリティ拡大**
 - ・日本人学生との交流も含めた生活・学業支援体制及び環境の整備や、学生寮等の施設整備等
- **研究力の強化**
 - ・研究の質向上に向けた研究環境の構築等

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の実装化

【共通】デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備



デジタル化の体制強化と合わせた情報化推進統合拠点の整備

①成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備



多様な交流を促進するオープンラボ

②地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備



産学連携のスタートアップ拠点

③多様な主体に開かれた魅力ある環境整備



大学・高専・産業界・市が共同運営するコワーキングスペース

④グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備



多様な交流を支える国際宿舎

➤ 戦略的なリノベーション等を基本とした教育研究活動等の基盤整備

国立大学法人等における教育研究活動やその成果を社会に還元する社会貢献の役割を支え、その効果を十分に発揮できるよう、**施設総量の抑制、適正化を図るとともに、既に保有している大量の老朽施設の戦略的なリノベーション等を基本とした老朽改善整備やライフラインの更新等を推進**する必要がある。

目指すべき方向性

➤ 地域と共に発展するキャンパス全体の「イノベーション・コモンズ（共創拠点）※」の実装化

キャンパス内の共創活動の核となる施設をきっかけとして有機的なつながりを生み出し、地域との連携活動を活性化し、その成果を地域に還元

※「知と人材の集積拠点」としての特性を最大限発揮し、社会的な課題解決等に向けて、**多様なステークホルダーとの連携による創造活動を展開する「共創拠点」**としての役割を果たすためのキャンパスを目指す。